

## 小学校における英語活動等国際理解活動推進事業

本県では、平成19・20年度に、文部科学省から指定を受け、小学校における英語活動等国際理解活動推進事業に取り組みました。

本事業では、指導方法等の確立を図るため、地域のモデルとなる拠点校を指定して、ALT（外国語指導助手）や地域人材等の効果的な活用を含めた実践的な取組を推進しました。

その成果と課題をまとめていますので、外国語活動の円滑な導入に向け、参考にしてください。

### 1. 拠点校

次の8校の拠点校が平成19・20年度の2年間で、実践的な研究を行いました。

市町名	学校名	郵便番号	住所
津山市	<a href="#">鶴山小学校</a>	708-0825	津山市志戸部121
玉野市	<a href="#">宇野小学校</a>	706-0011	玉野市宇野2-23-1
総社市	<a href="#">昭和小学校</a>	719-1311	総社市美袋207
備前市	<a href="#">伊里小学校</a>	705-0034	備前市友延350
赤磐市	<a href="#">軽部小学校</a>	701-2213	赤磐市今井100
美作市	<a href="#">英田小学校</a>	701-2604	美作市福本935
浅口市	<a href="#">鴨方東小学校</a>	719-0233	浅口市鴨方町地頭上65
美咲町	<a href="#">柵原東小学校</a>	708-1511	久米郡美咲町行信141-1

### 2. 取組内容

拠点校においては、第5・6学年において、週1時間程度、英語活動等国際理解活動を実施する中で、下記①～③に示す事項についての取組を行うとともに、適宜④、⑤に示す取組を行いました。

- ① 教員の指導力向上のための取組
- ② 指導方法の工夫改善（単位時間の指導の流れ、英語ノート・CD・DVD等教材・教具の活用、教員の役割等）
- ③ 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握
- ④ ALTや地域人材等の効果的な活用
- ⑤ その他（中学校との連携、ICTの効果的な活用等）



### 3. 推進協議会

お互いの取組について情報交換し、県教育委員会と拠点校及びその所管の教育委員会が連携して研究・実践を推進するために、年間2回の推進協議会を開催しました。

(これまでの推進協議会の実施概要)

(1) 平成19年度第1回：平成19年8月23日(木)開催

- ① 「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」についての説明
- ② 拠点校8校の取組の発表
- ③ 質疑応答・指導助言

(2) 平成19年度第2回：平成20年3月3日(月)開催

- ① 小学校外国語活動の動向等の説明
- ② 協議・情報交換
  - ・これまでの取組の課題とその解決に向けて
  - ・英語ノート使用に向けての検討と今後の取組について  
(英語ノート試作版カリキュラムを用いて)
- ③ 指導助言
- ④ 質疑応答

(3) 平成20年度第1回：平成20年7月8日(火)開催

- ① 「外国語活動の導入について」今後の動向等の説明
- ② DVDによる授業公開「浅口市鴨方東小学校」の視聴
- ③ 全体協議 「鴨方東小学校の授業について」・指導助言
- ④ グループ協議 「英語ノートを活用した授業について」  
拠点校の取組についての情報交換等
- ⑤ 指導助言

(4) 平成20年度第2回：平成21年1月14日(水)開催

- ① 外国語活動導入に当たっての留意点・事前に受けた質問への回答等
- ② 拠点校による研究成果の発表
  - ・テーマ別の発表・拠点校のこれまでの取組概要資料の交換
  - ・英語ノートを活用した指導案・ワークシートの交換
- ③ 指導助言

(推進委員)

岡山大学 教授 高塚 成信 先生  
ノートルダム清心女子大学 准教授 伊藤 豊美 先生

～御指導・御助言から～

- 将来につながる力をつけることについて
  - ・ 日本人に対する英語教育を抜本的に改善する目的で、具体的なアクションプランとして「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」が国から示されたが、他のアジア諸国と比較して日本人の英語力が十分でないことや、大学に入学しても英語力が不十分なことが課題である。どういった力を小学校

段階でつけて、中学校・高等学校，そして将来につなげていくのかを考え、実用的な英語を使える力を身に付けることにつながるようにすること。

- 授業づくりについて
  - ・ 英語を話す必然性のある場を設定すること。
  - ・ 変化のある活動の中で，児童が大切な表現を繰り返し，聞いたり話したりするように工夫すること。
  - ・ 視覚的にわかりやすい教具の工夫をすること。
  - ・ 「人とかかわる力」をつけるため，児童相互・児童と教師のコミュニケーションの場を大切にすること。
  - ・ 異文化にふれさせることにより，異質なものを排除するような心理を取り除くこと。
  - ・ CD・DVD等ICT教材を効果的に活用し，ネイティブ・スピーカーの発音にふれさせること。
- ALTとのチーム・ティーチングについて
  - ・ 文部科学省作成の「小学校英語活動実践の手引」は，英語でも書かれているので，ALTにも読んでもらい，情報提供するとよい。
  - ・ ALTにも，授業の評価を返すこと。その方が，よい人間関係につながる。



【熱心に発表を聞く参加者】



【全拠点校による発表】



【大学教授による指導助言】

#### 4. 成果と課題

##### (成 果)

- 拠点校では，積極的に授業公開し，互いの授業を分析することにより授業改善を行った結果，アンケートによると，多くの児童が「英語活動が好き」「英語が使えるようになりたい」と回答しています。
- 先進校視察，外部講師を招聘しての実践的な研修や，文部科学省作成の「小学校外国語活動ガイドブック」等を用いての校内研修・個人研修等により先生方の指導力が向上しました。最初は，戸惑っていた先生方も，研究実践を進めるにしたがい，自信をもって楽しみながら取り組めるようになりました。
- 岡山県教育委員会は，拠点校を所管する市町教育委員会と連携・協力し，拠点校に情報提供や学校訪問で助言を行うことにより，拠点校の指導方法やALTとのTTの在り方等に工夫改善が見られました。拠点校の公開授業，研究発表会には，中学校の先生方も招聘し，中学校との連携についても協議するとともに，成果の普及を図りました。

- 県推進協議会では、拠点校相互の情報交換や英語ノートの効果的な活用に関する検討を行いました。全市町村教育委員会の外国語活動担当者を招集した会では、外国語活動導入に関する最新の情報を提供したり、全拠点校の成果発表や英語ノートを活用した指導案の交換を行ったりして、外国語活動が円滑に導入できるようにしました。

(課題)

- 英語ノート（試作版）やその付属教材、及び学校独自に作成した教材等を利用して研究実践を進めてきましたが、平成21年度に全校に配付される英語ノート（完成版）及びその付属教材等の効果的な活用について、さらに研究を進め、授業改善を行うことが必要です。
- これまで、各校において評価の観点を決めて、評価を行ってきましたが、評価の在り方については今後さらに研究を進めることが必要です。
- 拠点校の公開授業や研究協議には、中学校の先生方も参加して意見交換を行ってきましたが、中学校との連携をさらに進めることが課題です。

(課題の解決に向けて)

- ◇ 県総合教育センターの研修講座（夏休み中の3日間）において、教材の効果的な活用や評価の在り方についての研修を実施しますので、積極的に参加してください。
- ◇ 中学校との連携については、小学校と中学校で互いに授業を参観したり、年間指導計画や指導案の交換を行ったりするなど、情報交換を積極的に行ってください。
- ◇ 平成21年度から、文部科学省指定の「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業」で、6校の実践研究校を指定し、また、「英語教育改善のための調査研究事業」で、1中学校区（1中学校と4小学校）の研究開発学校を指定し、さらに研究を進めます。公開授業の際は、是非参加して、各校の取組の参考にしてください。